

しじゅんせつ はじ ひ はい すいようび わたし い え すさま よんじゅうにちかん あ の せいかつ い み  
四旬節の始めの日である灰の水曜日、私はイエス様の40日間の荒れ野での生活の意味に  
たい はな い え すさま よんじゅうにち とお むかし にんげん あやま つみ あがな  
対して話しました。イエス様は、その40日を通して、昔からの人間の過ちや罪を贖ってく  
ださったのです。それは、にんげん げんざい よん せんねん え じぶと かいほう  
人間の原罪からの4,000年・エジプトから解放されたイスラエルが  
あ の す おう しはい つみ かさ いすらえる とら ひと  
荒れ野で過ごした40年・王たちの支配のもとで罪を重ねてきたイスラエルが囚われ人として  
たこく す よんひやくねん ながいねんげつ あいだ にんげん おか つみ いま わたし  
他国で過ごした400年のことです。その長い年月の間に人間が犯した罪、また、今も私たち  
によって重ねられている罪の本質とは、かみさま つみ ほんしつ かみさま さか じぶん たか  
神様に逆らいながら、自分を高めることなのです。つ  
まり、かみさま より じぶん ゆうせん わたし よわ ころ うご じっさい  
神様より自分を優先しようとする、私たちの弱くてかわいそうな心の動きです。実際  
、あだむ えば はじ つみ れきし み にんげん こうまん ころ  
、アダムとエバから始まった罪の歴史を見ると、そこにはいつも、人間の傲慢な心があったと  
わ  
分かります。

たとえば、え じぶと どれい せいかつ いすらえる あ の くる  
エジプトの奴隷として生活してきたイスラエルは、荒れ野で、エジプトでの苦し  
みからかいほう  
解放されたのに、むしろ、た もの いふく こたわ  
食べ物や衣服などに拘って、エジプトに帰ろうとしたのです  
。そこにかえ  
帰ったら、ふたた どれい  
再び奴隷になってしまうはずですが、かれ かみさま みちび  
彼らは神様の導きより、奴隷にな  
ってでもじぶん  
自分たちの欲心を満たそうとしたということです。そういうわけで、かいほう  
解放されたイス  
ラエルの中なか  
の第一世代の人々はだいいちせだい  
神様の怒りを買って、あ の し  
荒れ野で死んでしまいました。

また、イスラエルはやくそく  
約束された地についたのち、かみさま か  
神様の代わりに、おう もと  
王を求めました。それは  
、かれ かみさま  
彼らが神様のみ言葉や導きよりもことば  
人間にいたがったからです。そこで、かみさま  
神様はその要求  
通りにとお  
王を立ててくださいましたが、それからイスラエルがあじ  
味わったのは、おう  
王たちの圧政・  
こうかん  
高官たちのさくしゆ  
搾取・いつわ  
偽りのよげんしゃ  
預言者たちやぐうぞう  
偶像のしさい  
司祭たちのあざむ  
欺き・また、おわ  
終わりのないせんそう  
戦争でし  
た。そして、ついに、かれ  
彼らはとら  
囚われ人となつてたこく  
他国でよんひやくねん  
400年ものとき  
時を過ぎながら、じぶん  
自分たち  
のせんぞ  
先祖のことば  
言葉までわす  
忘れてしまったのです。

イエス様はさ  
アダムとエバのげんざい  
原罪からつ  
積み重ねられてきたか  
人間の罪のにんげん  
歴史を、つみ  
ご自身のれきし  
40日  
のくなん  
苦難をとお  
通してあらた  
改めてしめ  
してくださいました。また、ご自身からじしん  
始まるはじ  
新しいあた  
契約の民が歩  
むべきみち  
道をもおし  
教えてくださいました。それは、かみさま  
神様のみことば  
言葉だけにみみ  
耳をかたむ  
傾け、かみさま  
神様だけをしん  
信じ

、また、神様だけに従うことです。現世的なことに心を奪われず、様々な苦しみや悩みの中にあっても神様により頼みながら、その神様の意向に沿って生きること、それが、今日の福音のイエス様を通して、私たちが学ばなければならないことだと思えます。あわせて、イエス様が荒れ野へ行かれたのは、悪魔の誘惑と戦うためでした。それと同じく、私達も自分の生活の現場で、色々な誘惑と戦わねばなりません。しかしその戦いは、私達だけが行うことではありません。荒れ野で悪魔の誘惑に打ち勝ったイエス様は常に、また、すぐそばで、私達と  
ともに戦ってくださいます。

そのようなイエス様の40日を思い起こしながら、私は次のことを考えてみました。神様は、世の中の様々な形のパンを追い求めている私たちの祈りの声を聴きたがっておられます。神様は、その腐ってしまうはずのパンのために、世の声に耳をうばわれてしまった私たちのかたくなな心を憐れんでおられます。神様は、色々な悩みや苦しみの中で迷っている私たちがご自身に向かって足を運ぶことを待っておられます。私たちが苦難の中で自分で気づかないうちに神様を試そうとしていても、神様は私たちを愛しておられます。むしろ、私たちが世の中の欲望・欲心に身を投じてしまうことを心配しておられます。神様は私たちの弱い信仰をご存知です。けれども、その信仰を強めてくださる方です。私たちが自分の信仰の弱さのため、この世の中の多様なものに身をかがめてしまうことを、神様は望んでおられません。

確かに、人間は世の中のものに耳を傾けてしまいましたが、神様はその様な人間に耳を傾けてくださいました。人間は世の中のものを得ようとして、自らを世の暗闇に投げ込みましたが、神様はその様な人間の為に独り子を遣わされました。人間は世の中のものの前に身をかがめてそれに従いましたが、むしろ、神様は人間の救いの身代金としてイエス様を遣わされて、ゴルゴタまでの道で、三度も身をかがめるようにしてくださいました。この様なイエス様の姿を前にして、私達は自分自身が今まで、どの様に生きてきたのかを顧みざるを得ません。塵で作られた人間は、ただの塵なのに、塵のような世の中の物を追い求めながら、その塵を

じぶん ほこ ほこ  
自分の誇りとして誇ろうとしているのではないかという気がします。

きょう さんがつじゅうごにち ふたまたがわきょうかい ちゅうし しじゅんせつ ふしぎ  
今日から、3月15日まで、二俣川教会のミサは中止します。四旬節の不思議なスタート  
になりました。しさい とく きょうくしさい たび けっていほんとう つら  
司祭として、特に、教区司祭としては、この度の決定は本当に辛いことです。  
まいにち ささ せいたい せつきょう とお じぶん まか しんじゃ れいてき  
毎日、ミサを捧げながら、ご聖体と説教を通して自分に任せられている信者さんたちの霊的な  
かわ う いや つと ざんねん あいだ せいむ て はな  
渴きと飢えを癒すため務めるべきですが、残念ながら、しばらくの間、その聖務から手を離さ  
なければならない状況になりました。これは、まるで、じぶん ひつじ む ほうち  
自分の羊の群れを放置するようなこ  
とです。でも、かみさま いつく ささま あい みな ゆだ わたくし しんじゃ みな  
神様の慈しみ・イエス様の愛に皆さんを委ねます。また、私と信者の皆さん  
が、これまで歩んできた信仰の道を自ら顧みて、新たにすることができるよう神様に願いま  
す。どうか、かみさま いま くる じょうきょう おさ わたし すく いの  
神様が今の苦しい状況を抑え、私たちを救ってくださるようにお祈りいたしま  
す。

かみさま み て なか すべ いのち まも  
神様の御手の中で、全ての命が守られますように。アーメン。

カトリック二俣川教会主任司祭 ヤコブ 姜 真求